

## H20 年度秋田大学研究者海外派遣事業により 実施した研究・教育活動の成果報告について

平成 23 年 1 月 19 日

所属・職名：教育文化学部・准教授

氏 名：山名 裕子

派遣先機関名：オックスフォード大学（国名：英国）

派遣期間：2008 年 10 月 22 日～2009 年 1 月 28 日

研究課題・目的：遊びの中にみられる数量理解と幼児教育との関連

### □研究成果（列記願います）

#### ・論文

1. 山名裕子（印刷中）. 幼児が遊びの中で学んでいることー「遊び」の中の「学び」というという観点からー 秋田大学教育文化学部紀要, 66, 55-61.

#### ・著書（分担執筆）

1. 山名裕子（2009）. 第 8 章「子どもの数の理解」 多鹿秀継・南憲治（編） 児童心理学の最先端ー子どもの育ちを科学する あいり出版 pp. 121-126.
2. 山名裕子（2010）. 第 5 章「考えること・わかることー幼児期・児童期の認知発達ー」 川島一夫・渡辺弥生（編） 図で理解する発達ー新しい発達心理学への招待ー 福村出版 pp. 65-78.
3. 山名裕子（2010）. 第 V 章 3「数概念の発達」 森敏昭・青木多寿子・淵上克義（編） よくわかる学校教育心理学 ミネルヴァ書房 pp. 110-111.
4. 山名裕子（2010）. 第 10 章「子どもの思考の研究手法」 栗山和広（編） 子どもはどう考えるかー認知心理学からみた子どもの思考 おうふう pp. 191-204.
5. 山名裕子（印刷中）. 第 9 章「子どもの遊びと学び」 無藤隆・清水益治（編） 保育の心理学Ⅱ 北大路書房, pp. 73-80.
6. 井上智義・山名裕子・林 創（印刷中）. 発達と教育：心理学をいかした指導・援助のポイント 樹村房.

#### ・学会発表

##### 【国際学会】

1. Inoue, T., & Yamana, Y. (2009). Comprehension of animated ideograms for verbs both in preschoolers and in aged people. Poster presented at the 11<sup>th</sup> European Congress of Psychology, Oslo, Norway.

### 【国内学会】

1. 山名裕子 (2010). わりきれないものの配分の仕方(2)－「同じ」と判断する理由の分析－日本発達心理学会第21回大会発表論文集, p. 396.

### 【シンポジウムでの話題提供】

1. 山名裕子 (2009). 幼児期における数量理解の発達 日本心理学会第73回大会・シンポジウム「子どもの学びを促す学習支援のための研究のあり方」
2. 山名裕子 (2009). 子どものことばと心 日本教育心理学会第51回大会・自主シンポジウム「会話における誤解の理解－コミュニケーションを円滑にする方法を探る」

### 【ラウンドテーブル（企画・司会・話題提供）】

1. 山名裕子 (2010). 分離量（デジタル）と連続量（アナログ）のとらえ方の違い－両者の特性をもつ「小豆」の配分行動から－ 日本発達心理学会第21回大会・ラウンドテーブル「認知発達におけるデジタルとアナログ－空間・時間・数－」

### ・その他

1. 山名裕子 (2009). あこがれの先生のもとで……（海外留学体験記） 日本発達心理学会ニューズレター, 58, 13-14.

### □教育活動等（列記願います）

1. 「幼児教育演習Ⅰ」において、派遣期間中のゼミや研究に関する話を随時取り入れた。
2. 「生涯発達心理学Ⅲ－幼児期を中心に－」において、特に「概念の発達」として、数概念の発達の中でも初歩的な事柄について講義をおこなった。
3. 「幼児心理学」において、「数概念の発達」として、派遣期間中の研究成果を中心に講義をおこなった。

### □海外派遣事業中の教育・研究活動が、帰国後の研究等の活動にどのように反映されたか概括ください。

現在、2009年度から採択された科研の申請課題である「幼児期から児童期にかけての子どもの発話にみられる数量理解の発達と算数教育（若手研究（B）：2009年度～2011年度）」において、幼児期から児童期の連続性を考慮に入れた数量理解の発達についても研究をすすめている。その過程において、国際学会に参加したときなどにお会いしたり、メールでのやりとりなどを通じたりして、研究に関する議論を継続的にこなしている。

2011年3月に開催される、日本発達心理学会第22回大会に Prof. Terezinha Nunes と Prof. Peter Bryant が来られることが決まり、特別招待教授リレー講演が開催されるが、その司会を務めさせていただく。また彼らが同志社大学に1ヶ月間、滞在することから、共同研究者である井上智義氏（同志社大学）とともに、研究会を数回、主催する予定である。研究会等を通して、現在の研究についてさらに議論を進める予定である。